





バラの育て方 分類と系統

■バラの花の形

剣弁高芯咲き	ロゼット(多芯)咲き	カップ(盃状)咲き	一重咲き
			
ハイブリッドティー系に多い	オールドローズ、イングリッシュローズに多く見られる	イングリッシュローズに多い	原種や一部の交配種に多い

バラ園芸種の祖先である原種バラ

品種名	原産国	花色	花径	花弁数・花形
ロサ・マルチフローラ(ノイバラ) 特徴: 花期は5~6月。日本の原種で、強健でありバラ改良の基本種となっており、現在のポリアンサ系、フロリバンダ系に至っております。	日本	白	約2.5~3cm	約5枚
ロサ・シネンシス(コウシンバラ) 特徴: 四季咲き性であり、ガリカ系のバラと交雑が繰り返されることにより現在の四季咲き性の大輪系が確立された大切な基本種です。	中国	濃桃	約5~6cm	約10~15枚
ロサ・ダマスケナ 特徴: ヨーロッパには16世紀に入ったと考えられるが、紀元前に移入したとの説が有力。ダマスク系の香りがします。	小アジア	淡桃	約6~8cm	約20~30枚
ロサ・フェティダ 特徴: 1542年頃に、ヨーロッパに入り、中東にあったと思われます。	イラン、イラク、アフガニスタン	濃黄色	約5~7cm	約5枚
ロサ・ウィクライアーナ(テリハノイバラ) 特徴: 花名は葉が照り輝く意。日本の原種。19世紀末フランス、アメリカに導入され、改良されて現在の観賞用ツルバラの基礎を作りました。	日本	白	約3~4cm	約5枚

バラの主な系統

系統名	特徴
ハイブリッドティーローズ (HT:Hybrid Tea Rose) 	幾多の交雑の結果できた四季咲き性の現代バラの系統です。バラの中で花が最も大きく、剣弁高芯咲きの花形を持っています。また、一枝単花咲きの花が多く、花色が豊富なのも特徴です。バラの系統の中でも香りの幅が広い系統です。
フロリバンダローズ (FL:Floribunda Rose) 	「フロリ」は「花」を、「バンダ」は「束ねる」を意味し、文字通り房咲きに花をつける種類のバラです。小輪のポリアンサ種と大輪のハイブリッド種を交配させたものが基になっています。HTのように大輪ではありませんが、花形は一重から半八重、HTタイプまで変化に富んで花色も豊富です。また四季咲き性が強いのも特徴。
クライミングローズ (CL:Climbing Rose) 	フェンスやアーチに這わせて庭を立体的に演出するのがツルバラです。現代のツルバラは、タンブラー系(一季咲き、小輪から中輪)・大輪咲き系(四季咲き、大輪から中輪、枝幹が2m以上伸びる)・枝がわり系(木バラの突然変異)の3つの系統に分けられます。
ミニチュアローズ (Min:Mimniature Rose) 	ミニチュア原種として有名なのはコウシンバラの矮性(わいせい)種。これに色々な園芸品種をかけ合わせて作られた矮性がこのミニチュアローズです。小輪咲きの四季咲き性のバラです。

参考資料:「趣味の園芸」(NHK出版) 「人気品種と育て方『バラ』」(NHK出版) 「ばら花図譜」(小学館)

How To 情報

コメリドットコム「HowTo情報」には、DIY情報、住まいや暮らしに役立つノウハウが満載です。

